

林野庁 北海道森林管理局  
常呂川森林ふれあい推進センター

令和3年度 年 報

# オホーツクの「森」から



発行に当たり

オホーツク地方は、世界自然遺産「知床」や網走国定公園等、自然環境に恵まれ貴重な動植物を育む地域です。

常呂川森林ふれあい推進センターは、オホーツク最大の河川である常呂川流域を中心に、自然再生や生物多様性の保全、森林環境教育等に取り組む企業・団体・NPO等の活動の支援、技術指導等を行っています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が収まらず、北海道においても感染の拡大が続き、当センターが予定していた多くのイベント等も中止を余儀なくされました。

この度、令和3年度の主な活動内容をまとめましたのでご覧下さい。

---

## 目 次

森林環境教育の取組み	..... 1
地域との連携・普及啓発等の取組み	..... 3
自然再生・生物多様性保全の取組み	..... 6
その他	..... 7
活動区域「オホーツクの森」	..... 8

---



## 森林環境教育の取り組み

当センターでは、森林環境教育に携わる関係機関の活動支援・技術指導に取り組んでいます。

### ○常呂小学校

#### ワッカネイチャースクール（自然観察会）

7月2日（金）、網走国定公園内のワッカ原生花園において、常呂小学校から依頼を受けて、常呂小3年生19名が参加する自然観察会「ワッカネイチャースクール」のサポートを行いました。

当日は、自然を観察する楽しさを感じてもらおうと体験型のネイチャーゲーム（フィールドビンゴ・カメラゲーム・サウンドマップ）を行いながら3班に分かれて散策を始めました。



■全員で準備運動

「フィールドビンゴ」は、それぞれ配られたカードを手にとって、辺りを注意深く観察しながら、自然にあるものを見つけてビンゴを完成させていきます。カードの内容は「花の種」のような簡単なものから「キノコ」といった見つけにくいものまでバリエーションに富んでおり、子供たちは「ギザギザの葉を見つけた」「あとひとつでビンゴになります」など、好奇心旺盛に観察をしていました。

「サウンドマップ」は、自分の周りから聞こえるいろいろな音を色や記号にイメージして地図にします。「風の音や鳥の鳴き声などいろいろな音が聞こえて楽しかった」「船の音を描くのが難しかった」などの感想がありました。

「カメラゲーム」は、二人ペアになり、カメラマンは目隠しをしたカメラ役を被写体に誘導、カメラ役は見た光景を絵にします。場所が原生花園ということもあり花が咲いている植物を選んだ児童が多かったようでした。



■フィールドビンゴ



■サウンドマップ

担任の先生からは、「ネイチャーゲームは子ども達が楽しめる内容で良い経験になりました。今後もよろしくお願いします。」とのコメントをいただきました。

後日、参加した児童たちから、お礼の手紙が届きましたのでご紹介します。



■お礼の手紙

#### 紹介文 1

7/2は教えてくださってありがとうございます。ぼくはサウンドマップが楽しかったです。理由は、耳をすましたら、いろいろな音が聞こえて楽しかったからです。

#### 紹介文 2

7/2は教えてくださってありがとうございました。わたしはフィールドビンゴが楽しかったです。見つけるのが楽しかったです。

※新型コロナウイルス感染防止の観点から中止した森林環境教育

- 端野小学校 森林教室（6月）
- 生田原教育センター キッズチャレンジクラブ（7月）
- センター主催 「オホーツクの森」子ども探検隊（7月）

## 地域との連携・普及啓発等の取組み

当センターは、森林ボランティアの活動支援・技術指導や民国連携の取組み、森林の普及啓発等に取組んでいます。

### 【森林ボランティア オホーツクの会】

#### ○秋の森林散策会

新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が明けた10月10日（金）、弟子屈（てしかが）町屈斜路（くっしやろ）湖の和琴（わこと）半島において、「オホーツクの会」の秋の森林散策会のサポートを行いました。

毎年開催される森林散策会は、会員の中でも特に人気のあるイベントで、今回は25名が参加し、密を避けるために4班に分かれて、およそ2.5kmの自然探勝路を散策しました。

今回選んだコースは、湖岸に沿って時計回りに半島を回る通称右回りコースで、参加者は、ガイド役の会員からシラカバやセンノキなどの樹木や、いろいろな種類の草花の解説を受けながら、秋の森林のさわやかな空気を楽しみました。

全体的に紅葉の見頃には少し早かったようですが、黄色に色づいたカツラの葉とトリカブトが散策路を彩り、中間地点の「オヤコツ地獄」と呼ばれるスポットで昼食と記念写真を撮り、楽しい一日を過ごしました。



■秋の屈斜路湖岸から散策スタート



■参加者全員で記念撮影



■ガイドによる樹木解説

#### ○炭作り&色いろ食べ隊

10月30日（土）、北見市端野（たんの）町にある「オホーツクの森」で「オホーツクの会」の飾り炭作りのサポートを行いました。

当日は、一般参加者を含む23人が参加して、各々が持ち寄った松ぼっくりや栗のイガ、ハスの実など飾り炭にしたいものをスチール缶に入れて、薪ストーブで加

熱します。

炭焼きが完成するまでの間は、ヤマブドウ狩りやのこぎり体験を楽しみ、会員が腕をふるった豚汁やでん粉団子を味わい、年内最後の会のイベントを楽しみました。



■完成した飾り炭

### その他の活動支援

- 5月11日 自主活動（第1回）（オホーツクの森）
- 10月 4日 森林に学び隊（弟子屈町和琴半島）
- 10月12日 自主活動（第2回）（オホーツクの森）

#### 森林ボランティア 「オホーツクの会」

オホーツクの会は森林でのボランティア活動を通じて、森林の中で自然と親しみ、森林に学び、これに共感する人の輪を広げようと平成20年3月に設立されました。活動場所は北見を中心に主に国有林「オホーツクの森」で活動していますが、これ以外でも活動の場があれば参加することとしています。

### 【オホーツク総合振興局東部森林室】

#### ○木育フェスタ「森林体験バスツアー」

7月11日（日）、美幌町みどりの村において、第44回全国育樹祭を記念して開催された「森林体験バスツアー」への協力依頼があり、当センターから3名が参加し、のこぎりを使った除伐作業や苗木施肥などの育樹体験や木工クラフト（ペン立て）体験をサポートしました。



■育樹体験（苗木施肥）

#### ○高等支援学校の林業体験

10月15日（金）、津別町道有林において、「日本体育大学附属高等支援学校の林業体験」への協力依頼があり、当センターから3名が参加し、アカエゾマツの枝打ち体験、チミケツ湖湖畔の森林散策をサポートしました。

## ○木育・森林環境教育意見交換会

東部森林室と当センターでは、毎年、お互いの活動内容を共有し、連携した取組みに関する意見交換会を行っています。今年度は、10月27日（水）、北見市国有林「オホーツクの森」で6名が参加して行われ、平安遊歩道に設置した樹名板コースを紹介しました。



■ 樹名板コースの説明

## 【緑と花の市民の会】

### ○「緑の募金」街頭キャンペーン

4月22日（木）、北見市内で緑と花の市民の会主催の「緑の募金」街頭キャンペーンが行われ、当センターから2名が参加しました。

同募金は、地域の緑化を進めて様々な「森林づくり・人づくり」活動の活性化を目指すもので、当日は市民と各団体企業から8団体・約50人が参加し、JR北見駅広場から商店街にかけて、道行く市民に募金活動を行いました。



■ 商店街での街頭キャンペーン

コロナ渦の状況から声かけを控えめに  
して、募金の協力の呼びかけはボードを使  
っての活動となりましたが、市民の方々は  
快く募金に応じてくださり、とても清々  
しい気持ちにさせていただきました。

## 【オホーツクみどりネットワーク】

5月25日（火）全体会議（書面開催）

予定していた森林散策会は中止になりました。

※新型コロナウイルス感染防止の観点から中止となったイベント

- 北海道立ネイパル北見主催 「ネイパル体験デー」（5月）
- センター主催 森林の魅（味）力を感じよう！（山菜教室）（5月）
- 北海道農政事務所北見地域拠点主催 夏休みこども体験デー（8月）
- 網走中部・網走南部署・東部森林室共催 「山の日」制定記念 森林散策会（藻琴山登山）（8月）
- センター・オホーツクの会共催 森林へおいでよ！パネル展（9月）
- オホーツクの会主催 冬の森林散策会（2月）

## 自然再生・生物多様性保全の取組み

### 【自然再生モデル事業企画運営協議会】

自然再生モデル事業企画運営協議会は、平成17年10月に発足し、オホーツクの森内「自然再生モデル林」における森林づくりの活動や今後の森林の取扱いを検討しています。

今年度の企画運営協議会については、新型コロナウイルス感染予防の観点から現地で行う第一回会議（10月期）を中止し、第二回会議（3月）を書面開催で実施しました。

### 【野生生物自動撮影調査】

「自然再生モデル林」において、アライグマ等の生態系に影響を及ぼす外来生物や野生生物の生息動向を確認するため、赤外線感知装置付きの自動撮影カメラを設置して、24時間、自動撮影調査を実施しています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響から撮影は中止しました。



■コウモリ類 2019.9 撮影



■キタキツネ 2021.10 撮影

### 【自然再生モデル林事業の普及活動】

京都大学から、海外で混交林の造成及び維持の研究・活動を行っている学生に森林をつくる感覚を学ばせたいとの依頼があり、10月27日（水）、オホーツクの森の樹種転換エリア内を案内し、自然再生モデル林事業の普及活動を行いました。

※新型コロナウイルス感染防止の観点から中止した行事

- センター主催 オホーツクの森林づくり（6月）
- センター主催 森林づくり塾（年2回 6月・10月）

## その他の取組み

### 【樹名板コースの活用】

#### ○若手職員の職務スキルの向上

8月3日（火）、北見市端野町（たんのちょう）の「オホーツクの森」樹名板コースにおいて、網走中部・南部森林管理署と北見市、置戸町の若手職員を主体とした19名の参加により、各種の森林調査に対するスキル向上を目的とした「樹木判別学習会」を実施しました。

午前の部は、樹種判別の基礎である単葉・複葉の種類、葉脈・葉柄などの部位を説明し、4班にわかれて樹名板が設置された43種類の樹木やツル類を観察しました。

午後の部は、午前中に観察した中から20種類の樹木判別を行い、自分の知識を確認し、それぞれのスキルアップを図りました。

参加者からは「普段の業務ではあまり触れることのなかったノリウツギやフッキソウなどを判別できるようになりました」、「ツル類はあまり知識がなかったのでこれを機会に習得したい」などの感想がありました。

なお、樹名板コースは、森林ボランティア「オホーツクの会」の樹木勉強会、オホーツク総合振興局東部森林室との意見交換会でも活用しています。



■葉や樹皮の特徴から樹木を判別

### カツラ

- ・高さ30m、太さ200cmほどになる広葉樹
- ・葉は対生し長さ4~8cm、ハート形で小さな波状の鋸歯がある。秋に黄葉し甘い香りがする



- ・樹皮はねじれるように長く割れる
- ・用途：公園樹、街路樹、家具材、墓盛など
- ★太くなると株立ちが多い
- ★「香りが出る=香出(かづ)る」が名前の由来という説がある

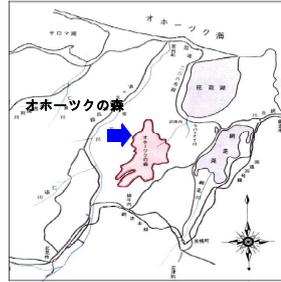
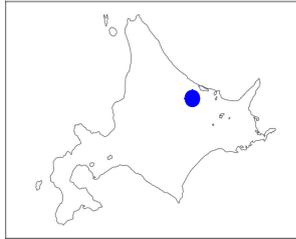


■コースに設置している樹名板



■樹木勉強会

## 活動区域「オホーツクの森」



この案内図と、現地交差点にある道標の丸数字は、位置が合致しており、現在地の確認に便利です。

区間距離		凡例
赤色ルート(①~⑩)	23.1km	古の森
青色ルート(⑥~⑨)	7.9km	主要道路
緑色ルート(④~⑫)	6.9km	その他道路
黄色ルート(⑳~㉔)	7.9km	オホーツクの森入口指路標
桃色ルート(⑥~⑫)	1.3km	道路案内図
自然再生モデル林ルート(⑤-⑪-⑫-⑬)	2.3km	位置番号
環境教育実践コース(④~⑪)	2.6km	



林野庁 北海道森林管理局  
 常呂川森林ふれあい推進センター  
 〒090-8588 北海道北見市北斗町3丁目11の3  
 【TEL】0157-23-2960 【FAX】0157-26-2144



[http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/tokorogawa\\_fc/index.html](http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/tokorogawa_fc/index.html)

表紙：「オホーツクの森」展望台から見る能取湖